

丹波焼の里 ミュゼシター

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

2020
spring
summer
vol.
27



市野忠作 作 ごはん土鍋

丹波の手仕事 匠の技 13
忠作窯 「土鍋」 市野 忠作氏
雅利氏

秋の叙勲瑞宝単光章受章
市野 晃司氏

やきものの里情報コーナーと
陶芸文化プロデューサー

インタビュー
神農 巖展 — 堆磁
生命の根源、そして祈り
神農 巖氏



最古の登窯近くの旧陶芸館を
右手に見ながら登り切った先
に忠作窯がある。

忠作窯

〒669・2135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭16

電話 079・597・2679

文 増田知子 写真 迫田隆

忠作窯の二代目・雅利氏は、見て、触って、使って「こちよい」をモットーにお櫃やすり鉢など、「ココチ舎」の屋号で展開、やはり暮らしの道具を中心としたものづくりに取り組まれている。京都や滋賀で修業を積んで戻ってこられた雅利氏の作品は、キャセロールやココットなど一見、伝統的な丹波焼と一線を引くかのようにも見えるが、スリップウェアやしのぎなど古来の丹波の技法を色や形を変化させながらご自身の作品に織り込まれている。

伝統を大切にしつつもモダンに変化していく忠作・雅利父子の器は、こちよい道具としてご食卓で長く愛用される一品となることだろう。



丹波の手仕事

匠の技 13

忠作窯「土鍋」 市野忠作・雅利氏

忠作窯の作業場には素朴な土鍋が並んでいる。土の風合を生かした刷毛目が美しい。丹波では昔から壺や甕、すり鉢などの生活雑器が焼かれてきた。土鍋も昔から受け継がれてきた日用雑器のひとつかと思いきや、忠作氏の奥様の実家で使われていた土鍋に惹かれ作ってみたのがきっかけだったと言われる。最初は丹波の土で試したものの直火には向いておらず、愛知県、滋賀県などの粘土で試した結果、耐火性が良く値段も手ごろな他産地の土を取りいれたとのこと。

ご自身も丹波焼の窯元の家に生まれ二人の兄とともに陶芸の道に進み、長兄から独立して窯を開いた昭和53年以降も作家としてよりも職人として腕を磨き、丹波の土を用い丹波古来の左回転でろくろを引き続けてこられた。一方、新たな土鍋への取り組みなど、その柔軟な発想は80歳を超えた今も健在で、私たちが訪ねた日もテレビで見たタジン鍋などを参考に蒸し器として使える土鍋を試作されていた。

令和元年度秋の叙勲

「瑞宝単光章」受章

市野 晃司氏 (源右衛門窯)



このたび伝統工芸士であり、50年以上作陶に携われていること、さらに丹波立杭陶磁器協同組合理事長を務めるなど地域に貢献されてきた実績が認められ、瑞宝単光章を受章されました。

昨年12月皇居に赴き、天皇陛下に拝謁しお言葉を賜ったそうです。「単に仕事を50年してきただけ。いつも言っているのは生涯現役で、まずは心身とも健康に思っている」と謙虚におっしゃる。そして「50年の間にライフスタイルが大きく変化し、それに合う器が求められてきた。手仕事で客の心を掴む器はこれからも需要があると考えている」と言葉を続けられた。

丹波焼の良さは「仲間意識が強いところ」と言われます。丹波焼で7人目の受賞者となった今、ますますやきもの里丹波を牽引してくださることを期待しています。

おめでとーございます

令和元年度伝統工芸品産業功労者等の経済産業大臣表彰 功労賞

清水昌義氏(丹京窯)
清水昌義氏(丹京窯)
清水昌義氏(丹京窯)

北村圭泉氏(圭泉窯)
北村圭泉氏(圭泉窯)

取材 佐藤詩子

兵庫陶芸美術館内

やきものの里情報コーナーと

陶芸文化プロデューサー

兵庫陶芸美術館のエレベーターを3階で降りると、ガラス張りの渡り廊下に出ます。まわりには緑の木々が茂って木漏れ日が眩しく左手に宙に浮くような部屋が見えます。ここが『やきものの里情報コーナー』です。

『陶芸文化プロデューサー』が丹波焼と地域の魅力を発信する場としてここを活用することとなったのは4年前のこと。『丹波焼最古の登窯の大修復』を終え、その修復と初焼成の様子を当時空き部屋であったここに展示することになりました。今は、丹波焼の技法や色【白・黒・赤・カラー・フォルム】などテーマを決めて丹波焼の魅力を発信するスペースとして活用しています。



やきものの里情報コーナー担当の吉峯利恵子さんは「いろんな人の意見を取り入れながら今の丹波焼を紹介できるように考えています。これからは地元丹波篠山市のいろいろな工芸品も紹介できないかと検討しています。演出には制限もありますが訪れてくださったお客様が楽しんでくださるよう企画を考え展示していくのは楽しいことです」と。吉峯さんは他にも様々な企画やアイデアが溢れているようにこれから展示が楽しみです。

『やきものの里プロデュース倶楽部 陶芸文化プロデューサー』は丹波焼のボランティアグループとして発足して14年になります。丹波焼の情報誌『ミューゼレター』(本誌)を発行することから始まり『丹波焼窯元路地歩き』のボランティアガイドや伝統工芸士が学校に出向いて出前陶芸教室をする『学社連携』のお手伝いなどを定期的に行なう丹波焼のイベントのサポートもしています。皆、陶芸が好きで丹波焼やこの地域が大好きなメンバーで、多くの方々に知っていただくためになにかできないかと考えている集まりです。

この情報コーナーには、土日には陶芸文化プロデューサーがコンシェルジュとして在室しています。コンシェル

ジュを担当するのは3回目という青木さんは「美術館が開館する10時頃は多くの方が情報コーナーを覗いて下さいます。今田にあるお店や窯元さんのギャラリイについて尋ねられることも多いのでパンフレットを渡すなどして対応しています。陶芸をされている方が熱心に質問されることも多く、興味をもって見てくださるのはいずれのことです。でもお答えできないこともあって、後で調べて次は対応できるように備えています」とにっこり笑われました。

部屋の正面には手が届きそうなどころにある桂の木のように里山がどしりと構えていて麓には窯元群が並んでいるのが見えます。皆様も是非お立ち寄りください。やきものの里情報コーナーは：観覧無料です。



取材 上田智津子
写真 迫田隆

源泉かけ流しの日帰り天然温泉

コんだ薬師温泉
ぬまの郷

緑に囲まれた広い露天風呂で
ゆったり、のんびり
農産物直売所、レストランも併設、
1日ゆっくりお過ごしください。



◆ 入浴料 ◆
大人 700 円
(12歳以上)
小人 300 円
(6～11歳)

営業時間

AM10:00～PM10:00 (PM9:30 受付終了)

定休日 毎週火曜日 (祝日は営業)

〒669-2153

兵庫県丹波篠山市今田町今田新田 21-10

TEL.079-590-3377

<http://yume-konda.com/>

HP



Twitter



Instagram





神農 巖展 — 堆磁

生命の根源、そして祈り

陶芸家 神農 巖氏

兵庫陶芸美術館で第14回となる「著名作家招聘事業」にお迎えした、青磁を中心に取り組まれている作家・神農巖氏にお話を伺いました。

先生は「丹波」福知山のお生まれですが、この立杭という丹波焼の里の印象はいかがでしょう。

ここは平安末期から続く陶の里ですが、のどかでなだらかな山間の、この自然の中でやきものを焼く陶工の暮らしが脈々と受け継がれてきました。現代の陶工もおお、この里山とこの地の文化を愛して守っていることを感じます。

日本工芸会を中心に活動されておられますが、伝統工芸について今どのようにお考えでしょうか。

「伝統工芸」と聞くと、もしかしたら、古臭い何か骨董的な作品が展覧会に並んでいるように思われる方がいらっしゃるかもしれません。しかし伝承と伝統は違います。伝承は今ある形や形式をそのまま受け継ぐということですが、伝統は繋いでいくという意味合いに加えて、その時代時代に生きる人間がその人の持つ感性やその時代を映し出して継承して変わっていくかという感じがいいですね。ですから、私は会の中にいて会を運営する側の一つの視点として、応募作品で現代感覚の斬新なものを取り上げて、ベテラン・新人の枠を超え賞の対象になるべきだと思っています。やはり審査をしていますと心に響く魅力ある作品は、今の、現代人が生んだ感性でありますし、そういういったものを少しばかり先に陶芸に携わった私達も養っていかないとはいけません。古いものに縛られ留まってしまう、時代と共に進化していきたいものです。

公募展に出品する若い方があまり増えないということをお耳にしています。

現在はインターネット社会になり世界に向けて自己アピールしたり、作品を発表する場も増えたりして、組織、例えば私のいます日本工芸会などに属さず自分一人でやっておられる方もいらっしゃいます。しかし組織の中では陶芸のみならず他の工芸の作家もいらしゃいますので大勢のものと人とのつながりの中で、切磋琢磨し人間的にもまた、制作の上でも成長します。工芸会において我々役員は、若い人達が刺激されて魅力を感じて、会に入りやすい態勢を整えていかねばと思っています。

今回の聴講者の中に、若い作家さんがいらして、神農先生は一つ一つの作品に対して丁寧に講評され、若い人を熱心に指導されているとお聞きしました。

私は作品を見る時、物の向こうに人がいるとすることが常に意識にあります。同じものづくりとしてお互いが真剣に、対峙して、私も本当に感じた事を授けて、受ける側もその言葉を真摯に受け止めるという、「面授」の世界でないといけないと思うんですね。ですから嘘偽りなくきちんと本質を伝えたいといけませんし、感じたことを評価しないといけないと思っています。私も経験してきましたが、一年を費やして応募した自信作が落選した時、「何で？どこが悪いんだ？」って、鑑査委員を恨めしく思うことも時にはあったりします。でも時間が経って改めて作品を見ますと、やはり精度の足りないところが見えてくるんですね。ですから「このクオリティを高めていけばこの作品はもっと良くなる」と、端的にアドバイスや評価できるように私も日々勉強していかなければならないと考えています。

「講演で先生の作陶姿勢について、初期



のころからのお話、「堆磁」への取組、「胎」への繋がり、「祈り」への発展と、「作品」に対してのいろいろな思いを伝えていただきましたが、作品と食器とか日常の工芸品というものを分けておられるのでしょうか。

私の場合は分けていません。食器は生活空間でいかに使いやすいかという実用性や用途性を重視して制作しています。作品にはそれに芸術性も加味されます。しかし私達の工芸会では器形が先ずは基本です。工芸は「用の美」であるんですね。やはり通常に器を作っている、ずっと大きくすれば1点の大作になり、ぐっと縮小すれば向付になります。ぐい呑みでも大きくすれば抹茶碗として同じ雰囲気を出せるので、分けることはいらないですね。

若い人へメッセージをお願いします。

私は学生の頃、窯元巡りをして、たくさんの陶芸家にお会いしました。当時、諸先生方は、私が若輩であるのに関わらず、お時間をとって丁寧に質問にお答え下さったりお教え下さったりした事をよく覚えています。その後も多くの方々に教わって今の私の知識なり肥やしになっています。今回こちらの私のデモンストレーションとレクチャーでは、技術的な事を中心に進めました。実践の轆轤挽きの中で、「ここがポイントです」「ここは、こういうふうにと土殺しをして」と、制作上のコツとなる事をお伝え致しました。力不足ではありますが、私がお教えることで後輩の作家の悩みが

解消され、新たな発見、制作のヒントを見出し、頂け、作品の飛躍の向上や転換に繋がるようなことがあればいいなと思います。私も学生時代にやきものに魅了されて今に至っておりますが、後輩の皆さんも夢をもっておもしろいと思ったこと、楽しいと感じたことに突き進んでください。あきらめたらそこで終わります。あきらめずにやり抜く自分の思いを最後までもってやれば、必ず形になります。やきものは炎の中をくぐる芸術ですから、それだけに他にはない表現や魅力ができます。それを探って最大の魅力を発揮してほしいと思います。

あとがき

「堆磁(ついじ)」という泥漿(でいしょう)に状態にした磁土を何度も筆で塗り重ねて盛り上げ、器面に美しく浮かび上がる線文を施す独自の技法を創出した青磁を表現する作家・神農巖氏をお迎えし、「著名作家招聘事業」でテーマ展「神農巖展—堆磁生命の根源、そして祈り」が開催されました。1月18日には展示解説とスライドレクチャー、19日にはデモンストレーションとレクチャーが行われました。

スライドレクチャーでは、自ら考案された「堆磁(ついじ)」の技法にまつわるお話から生命の連鎖、「胎(ほうたい)」シリーズの誕生、「生命」を表現していく中で「祈り」というテーマを追求している作陶に関わる精神的なお話をされ、デモンストレーションでは、磁器制作に必要な基本的な技術を丁寧に解説されながら実演されました。

聞き手・写真 迫田 隆

神農 巖氏 プロフィール

- 1957 京都府福知山市に生まれる
- 1981 京都市工業試験場窯業本科修了
- 1982 京都府立陶工職業訓練校卒業
- 1983 京都市工業試験場窯業専攻科修了
- 1987 滋賀県大津市に窯業し独立
- 2004 第33回日本伝統工芸近畿展
滋賀県教育委員会教育長賞(2006年にも同賞)
- 2005 第1回菊池ビエンナーレ優秀賞
- 2009 第56回本伝統工芸展朝日新聞社賞
- 2011 第58回本伝統工芸展日本工芸会会長賞
- 2012 第7回バラミタ陶芸大賞展大賞
紫綬褒章、大津市文化特別賞、綾部市篤志者
- 2013 第23回秀明文化賞
滋賀県指定無形文化財「青磁」保持者に認定
- 2015 2014年度日本陶磁協会賞
- 2016 滋賀県文化賞

開館 15 周年 兵庫陶芸美術館 2020年度

展覧会の見どころ

JR「篠山口駅」より直通バスを4～5月、
9～11月の土日祝日に運行予定
※ダイヤ等詳しくは兵庫陶芸美術館まで

●特別展のご案内

The 備前 –土と炎から生まれる造形美–

2020年3月7日(土)～5月24日(日)

釉薬を施さず、土と炎と造形のみで魅せるシンプルで原初的なやきものである備前焼。本展では、桃山時代に茶人の間で栄えた古備前の名品から、古備前の魅力を再発見し、その復興に取り組んだ近代備前作家の作品、さらに現代の備前を牽引する人間国宝から新進気鋭作家までの作品を一堂に紹介します。

矢部俊一 《曉月》 2015年 個人蔵



No Man's Land –陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先–

2020年6月6日(土)～8月30日(日)

陶芸の素材や技法を用いながら、独創的な作風で現代性を追求し、工芸のみならず、現代美術・デザイン・建築などの幅広い分野から注目を集める30～40代の実力作家15名の作品世界を通じて、「陶芸の未来」を再考します。

見附正康 《無題》 2018年 兵庫陶芸美術館



出石焼 –但馬の小京都で生まれた珠玉のやきもの–

2020年9月12日(土)～11月29日(日)

「雪よりも白い」と表現される白磁が特徴的な出石焼は、江戸時代後期に創業した兵庫県内の多くの窯場が廃窯していく中で、さまざまな困難を乗り越え、やきものづくりが続けられています。本展では当館の所蔵品に加え、各地の博物館や美術館、個人が所蔵されている優品を一堂に会し、その歴史や技法などを紹介します。

出石 《白磁貼花薔薇文籠形花入》 明治時代前期 兵庫陶芸美術館



●テーマ展のご案内

Message –現代陶芸コレクション–

2020年9月12日(土)～11月29日(日)

心に残った風景への共感、社会への提唱、自身の心象など、作家は様々な想いを持って作品を生み出します。本展では、近年収集された現代陶芸コレクションを通して作品に込められたメッセージについて考えるいくつかのキーワードとともに、多様な陶による表現のありようを紹介します。

竹内紘三 《Modern Remains Rising》
2017年 兵庫陶芸美術館



丹波焼の世界 season4

2020年3月25日(水)～2021年2月28日(日)

2017年に日本遺産に認定された日本六古窯のひとつに数えられ、800年以上の歴史を持つ丹波焼。変化しながらも現在まで続く丹波焼の世界をお楽しみ下さい。

丹波 《色絵桜川文徳利》 江戸時代後期
兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)
兵庫県指定重要有形文化財



兵庫陶芸美術館 〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭 4 電話：079-597-3961 (代表) HP <http://www.mcart.jp>

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

●応募方法
ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(〇〇美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

●締め切り
2020年8月末日消印有効。応募多数の場合は抽選になります。

●宛先
〒669-2135
丹波篠山市今田町上立杭 4
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」宛

なお、ご応募頂いた方の個人情報は当選者への発送、本紙企画の参考以外の目的には使用いたしません。また当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

▼問合せ
電話：079・597・3961

●兵庫陶芸美術館
内容
お茶席・ワンコインコンサート・体験コーナー・味覚コーナーなど
5月3日(日・祝)～5月5日(火・祝)
兵庫陶芸美術館
電話：079・597・2034

●立杭陶の郷・各窯元・最古の登窯
内容
グループ窯作陶展
(陶の郷アートギャラリー丹波)
5月2日(土)～5月6日(水・祝)
5月3日(日・祝)～5月5日(火・祝)
5月2日(土)～5月4日(月・祝)
丹波立杭陶磁器協同組合
電話：079・597・2034

◆第14回「やきものの里 春ものがたり」
プレイベント 丹波焼「軽トラ市」4月26日(日)10時～16時

●期 間
5月3日(日・祝)～5月5日(火・祝)3日間
午前10時～午後5時まで
立杭陶の郷、兵庫陶芸美術館、各窯元など

●期 間
4月4日(土)～5日(日)
午前10時～午後4時まで

●期 間
4月4日(土)～5日(日)
午前10時～午後4時まで
篠山城跡三の丸広場
篠山城跡の桜(お花見弁当・地酒・特産品販売
春の丹波焼陶器市・銘木変木市・お茶席・ス
テージイベント・ビンゴゲーム
丹波立杭陶磁器協同組合
電話：079・597・2034

◆丹波篠山さくらまつり
「見て、味で、観て、春のささやま」をテーマに、恒例の「春の丹波焼陶器市・銘木変木市」を開催します。丹波篠山の和菓子や観光大使が丹波篠山茶でおもてなしする「お茶席」など、丹波篠山ならではの地域の特性を活かしたイベントが盛り沢山です。

イベント案内

Event information

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL.<http://www.tanbayaki.com/>
【入園料】高校生以上 200円
小中学生 50円

【開園時間】AM10:00～PM5:00 (通年)
【休園日】年末年始
毎週火曜日 [4月1日より]
(但し、祝日は営業します)

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の51軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしくあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティストックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分歩いてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか。小さなお子様からご高齢の方まで、手びねり(粘土細工)や絵付け体験に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。